

静岡市

静岡の自治を変える第一歩

明るい
暮らし
ふれあいの
まちづくり

役員のなり手問題
活動の負担軽減
住民参加の工夫
感染症対策

全自治会 全連合自治会 アンケート結果報告

静岡市
静岡市自治会連合会

はじめに

なぜアンケートを実施し、どのような方が回答をしたのか。

なぜアンケートを実施したのか？

このアンケートは、静岡市内の自治会活動の現状を把握し、課題を明らかにします。そして、自治会及び行政が、今後の地域づくりを進めていく上での指標とし、実施内容に優先順位をつけ、効果的な地域活動の参考にします。あわせて市内各地の取組から、課題解決のヒントになる優れた事例を発掘し、静岡市内全域で共有することでよりよい地域づくりへと反映させていくことを目的としています。

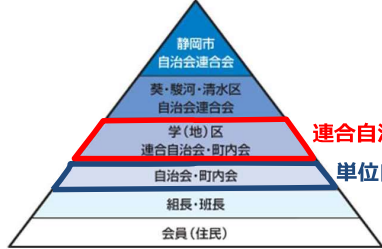
どのように実施をしたのか？

実施者：静岡市・静岡市自治会連合会
 対象：全ての連合自治会・自治会連合会
 全ての単位自治会・単位町内会
 実施期間：令和2年7～9月
 企画分析：里山くらしLABO

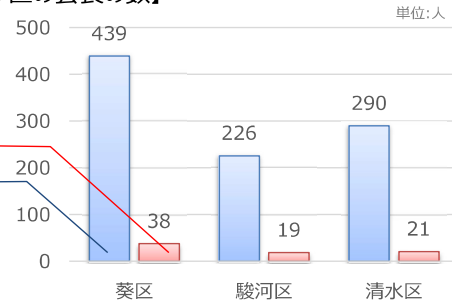
「目次」

- アンケートからわかったこと
- 01 はじめに
 - 03 自治会の現状と取り巻く環境
 - 05 単位自治会の活動と規模
 - 07 連合自治会の活動と規模
 - 09 自治会活動と会費
 - 10 会長の現状
 - 13 自治会活動と3つの区
 - 14 自治会活動の課題
- 地域づくりの工夫
- 15 役員のなり手にまつわる工夫
 - 19 活動の負担にまつわる工夫
 - 23 活動への住民参加についての工夫
 - 27 新型コロナ感染症に対する工夫
 - 29 自由記入

【静岡市の自治会】

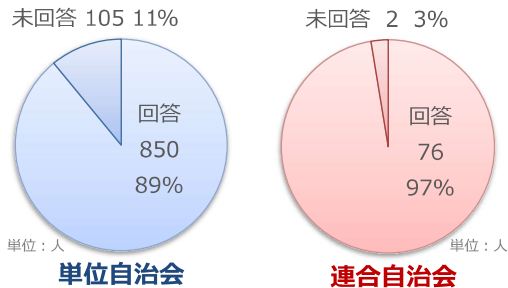


【3区の会長の数】



どのような方が回答したのか？

【アンケートの回答率】



単位自治会、連合自治会ともに、高い回答率でした。よって、一部の人が回答をした限定的なアンケート結果ではなく、多くの方が関わり、広く意味をもつアンケート結果になりました。

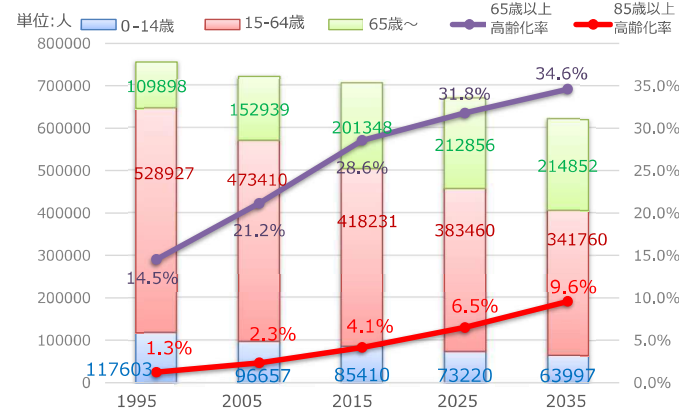
【アンケートの回答率 3区別】

	単位自治会	連合自治会
葵区	85%	95%
駿河区	86%	100%
清水区	98%	100%

3区別の回収率もいずれも高く、単位自治会においては、85%を超えており清水区に関しては98%と非常に高い結果となりました。

●静岡市の現状

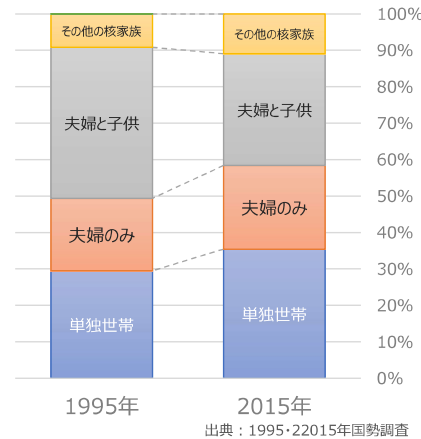
【静岡市人口と高齢化率の推移】 出典：国立社会保障・人口問題研究所による推計



静岡市の人口減少はこれからが本番です。

静岡市の人口減少は、これからさらに進みます。65歳以上の高齢化率は、1995年からの20年で約2倍に増えており、明らかに高齢化は進んでいます。これから第一次ベビーブーム世代が75歳以上の後期高齢者になるので、85歳以上高齢化率もさらに高くなっていくことが予測されます。

【静岡市の家族類型別世帯数の割合】

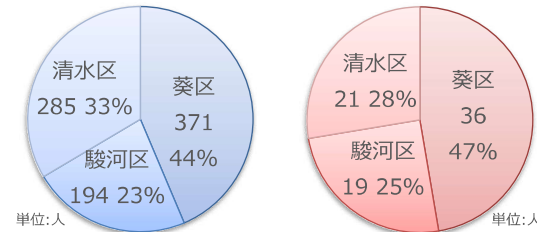


静岡市で最も多い世帯の型は「ひとり暮らし世帯」になりました。

その昔は「サザエさん」一家のように3世代が一つ屋根の下に暮らすのが当たり前で、最も多い世帯のかたちでした。それが、20年ほど前から親と子ども2世代の「核家族」へ変化をし、2015年頃から核家族より「ひとり暮らし」の世帯が増え、現在は、ひとり暮らしが静岡市で最も多い世帯のかたちとなりました。さらに今後は、高齢化にともない、高齢者のひとり暮らしも増えていくことが、予測されています。



【アンケートの回答者 3区の割合】



単位自治会
 葵区は他に比べると単位自治会長の数が多いので、葵区の回答者の割合が高くなっています。

この冊子の表記について

- ・自治会・町内会については「単位自治会」とします。
- ・連合自治会・自治会連合会については「連合自治会」とします。
- ・出典のないデータは、今回実施したアンケート結果に基づきます。

自治会の現状と取り巻く環境

自治会・町内会活動は今どのような流れのなかにあるのか。

ゆるやかに減少している自治会加入率

【静岡市 自治会加入率の推移】 静岡市データより

年度	H22	H24	H26	H28	H30
%	86.6	84.7	83.4	82.4	81.3
H22年との差		-1.9	-3.2	-4.2	-5.3

静岡市の自治会への加入率は、少しずつ下がっています。

担い手不足はますます深刻化する予測

定年後に地域で活動をしてくれる方が多いのですが、働き方の変化が、地域活動にも大きく影響してきそうです。

要因①
増える高齢者は75歳以上、65~74歳は大きく減ります

【静岡市高齢者数の予測】

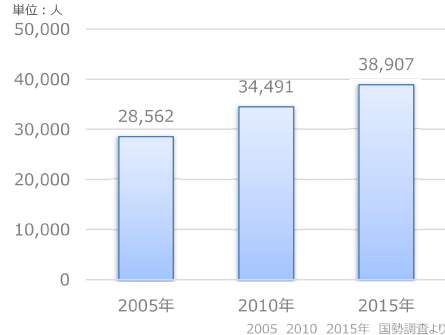
単位:人	年	65歳以上	65~74歳	75歳以上
静岡市	2015年	201,348	103,638	97,710
	2030年	212,883	79,576	133,307
		+11,535	-24,062	+35,597

出典：国立社会保障・人口問題研究所による推計

65~74歳が減り
75歳以上へ移行する

要因③
小売業・サービス業従事者の増加

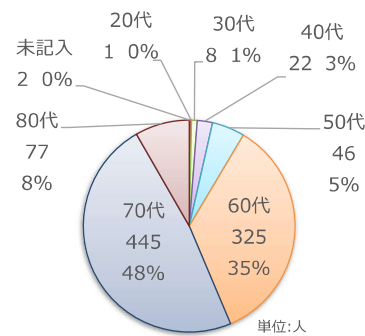
【静岡市の医療・福祉従事者の推移】



静岡市で医療・福祉に従事する人の数は10年間で1万人増えています。医療や福祉は24時間、年間通して休みがないので、土日に地域活動へ参加するのが難しい方も同様に増えています。

支えているのは60~70代

【単位・連合自治会 会長の年齢】

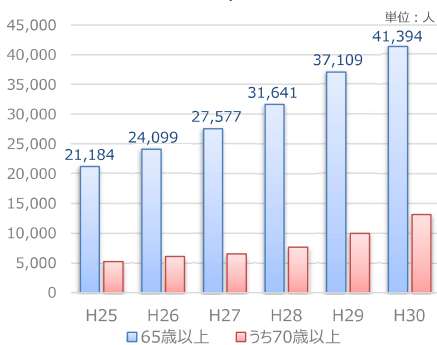


出典：国立社会保障・人口問題研究所による推計

市内の自治会活動を支えている会長の約半分は70代で、続く60代と合わせると83%にも及びます。

要因②
65歳以上も元気に働きます

【65歳以上の労働者数】(31人規模以上の企業・静岡県)



平成30年「高齢者の雇用状況」集計結果から厚生労働省静岡労働局発表 (H30 11 19)

様々な要因により地域の特性は大きく異なる

【自治にまつわる組織と規模】

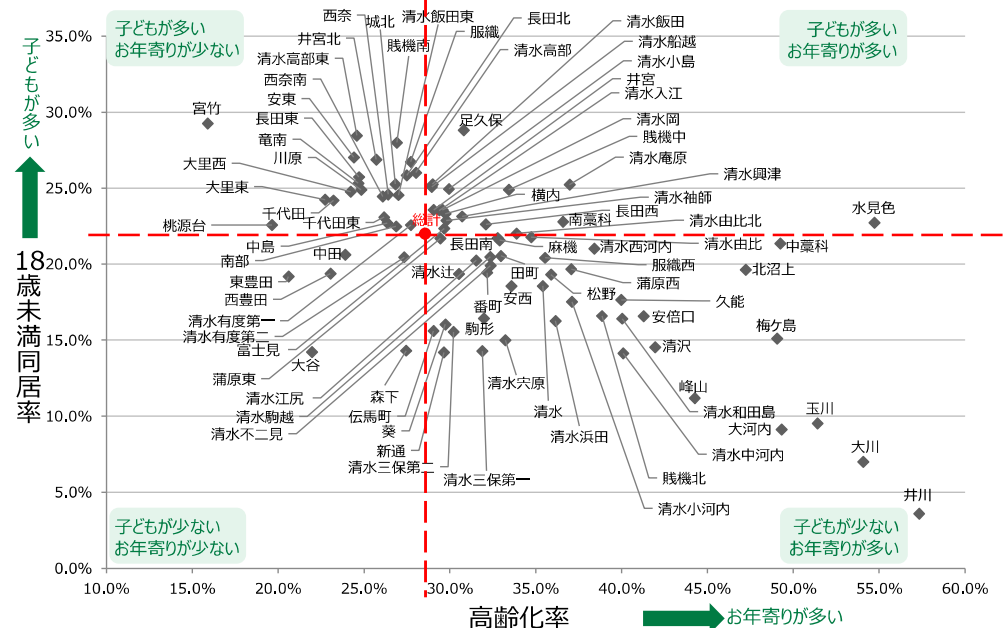
同じ規模でも、自治体なのか、連合自治会なのか、単位自治会なのかでできることが異なります。逆に、同じ単位自治会でも17世帯しかないところから、1,800世帯あるところまで様々です。画一的な進め方には、限界があります。

全国には、静岡市の連合自治会に相当する、単位自治会をまとめる組織がない市町が存在したり、連合組織がある地域とない地域が混在しているような市町もあります。自治の成り立ちが異なるのが、その理由です。自治会活動は、まさに住民が作り上げてきた歴史なのだと思えます。

単位(世帯)	県内の自治体	市内連合自治会	市内単位自治会
10,000		有度 11,000世帯	静岡の地縁組織
5,000		服織 5,300世帯	
3,000	河津町 3,300世帯	宮竹 3,300世帯	
1,000	川根本町 2,800世帯	一番町 1,680世帯	
500		両河内 800世帯	
		梅ヶ島 150世帯	
		古庄 1,800世帯	
		聖一色 1,150世帯	
		渋川北 520世帯	
		鎌田 108世帯	
		小島 17世帯	

【静岡市 18歳未満同居率×高齢化率 (概ね小学校区)】

出典：平成27年国勢調査結果



市内の概ね小学校区の地区を、高齢者の割合(高齢化率)と、子どものいる世帯の割合(18歳未満同居率)で配置しました。分布に近い地区は人口構成も近いので、近い地区の活動を地域づくりの参考にすることもひとつです。

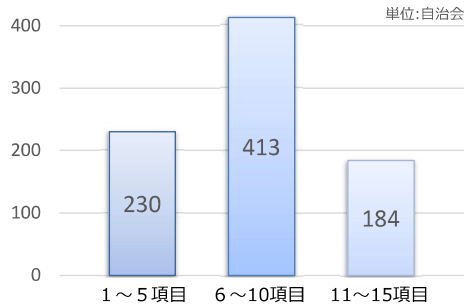
現状から...

市内はもとより、全国には優れた事例が多く存在します。しかし、上記の高齢化率や、子どもの数、持ち家率など、多種多様な要因によって、各地域の実情は異なります。優れた地域活動の事例が必ず参考になるとは限りません。自分の地域の特性を正しく把握し、試行錯誤を繰り返して、しなやかに変わっていくことが地域づくりに求められています。

単位自治会の活動と規模

市内に955ある単位自治会の規模や活動、任期などについて数字で見えていきます。

【単位自治会の活動数】



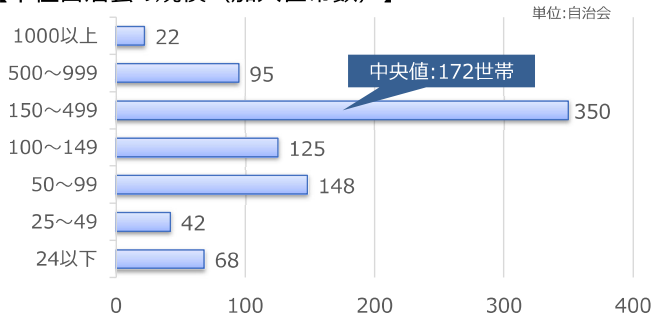
代表的な地域活動を15あげ、実施している活動の数を聞いた結果です。1つしか活動をしていない自治会から、15の活動全てを実施している自治会まであり、活動の幅に大きな差があることがわかりました。

《設問で挙げた15の代表的な地域活動》

- ・地域住民の交流を図るための活動
- ・防災活動
- ・防犯活動
- ・交通安全活動
- ・清掃など住環境美化に関する活動
- ・家庭ゴミ・資源ゴミ回収に関する活動
- ・回覧板をはじめとする情報の共有活動
- ・各家庭の葬儀への相互協力
- ・児童・生徒の健全育成
- ・未就学児やその親を対象とした活動
- ・高齢者福祉活動
- ・行政への要望活動
- ・生涯学習・文化活動
- ・運動会などの体育振興活動
- ・地域主体のまちづくりに関する計画作成

単位自治会の規模には900倍もの違いがある

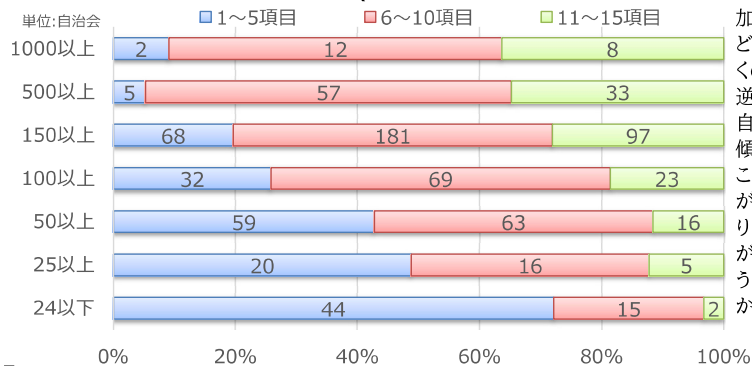
【単位自治会の規模（加入世帯数）】



単位自治会は、最小2世帯から、最大約1,800世帯の自治会まであり、その規模には、最大900倍ものひらきがあるのが現状です。そのため、「単位自治会」と一括りにすることは少し難しいように思います。人口が減っていく今後は、自治会の規模も加味して考える必要があり、さらには自治会としての適正規模についても検討が必要かもしれません。

加入世帯数が少ない自治会ほど、活動数は少ない

【単位自治会 世帯数×活動の数(割合)】



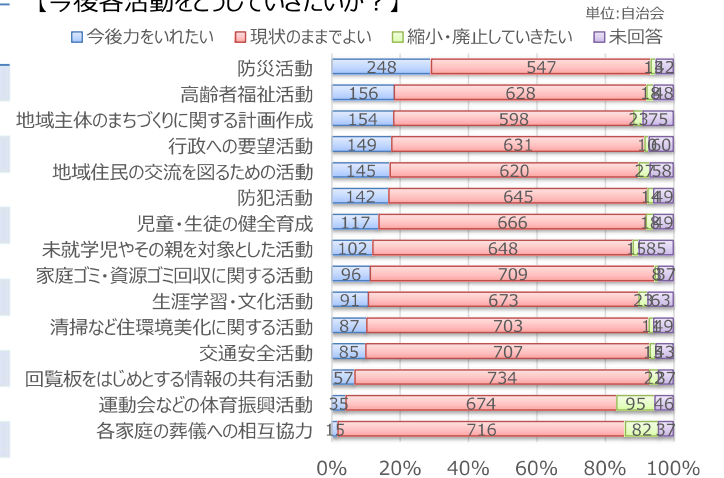
加入世帯数が多い自治会ほど、赤や緑の割合が増え、多くの活動を実施しています。逆に、加入世帯数が少ない自治会の活動数も少なくなる傾向が読み取れます。この結果から、自治会の規模が小さくなるほど活動数が減り、できることが限られ、活動が自然と絞られてくるのだろうことが、数字をともなってわかります。

活動の基本は「現状維持」力を入れるなら防災

【今後各活動をどうしていきたいか？】

現在、単位自治会が中心となって実施している活動ランキング

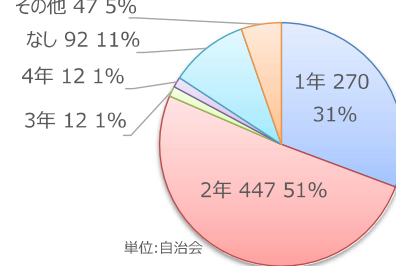
順位	活動内容	実施数
1	資源ごみ等の活動	685
2	葬儀への協力	651
3	回覧など情報共有	611
4	清掃など環境美化	447
5	地域住民の交流	291
6	行政への要望	280
7	防災	255
8	高齢者福祉	245
9	防犯	139
10	児童の健全育成	134
11	生涯学習・文化	100
12	交通安全	86
13	体育振興	84
14	未就学児家庭のケア	81
15	まちづくり計画作成	78



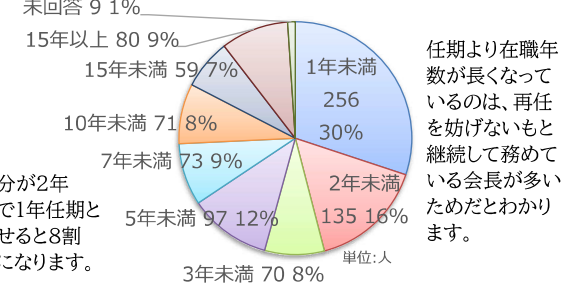
単位自治会が中心となって実施する活動は、ごみ回収に関する活動や葬儀協力、情報共有、環境美化活動で、今後については圧倒的に現状維持を希望しています。力をいれたい活動は防災活動で、近年の豪雨や台風、地震など自然災害を意識した結果といえそうです。防災については、自主防災組織や連合自治会とどのように連携するのかが、ポイントになりそうです。

世帯数が少ないほど、自治会長の任期が短くなる？

【単位自治会長の任期】



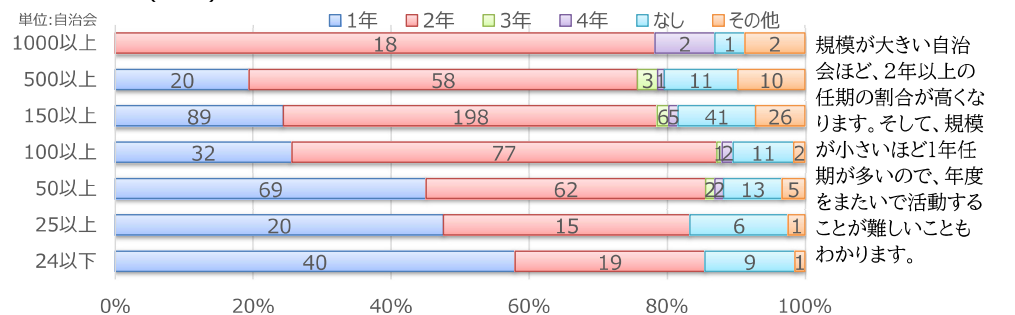
【単位自治会長の在職年数】



約半分が2年任期で1年任期と合わせると8割以上になります。

任期より在職年数が長くなっているのは、再任を妨げないものと継続して務めている会長が多いためだとわかります。

【規模×任期(割合)】

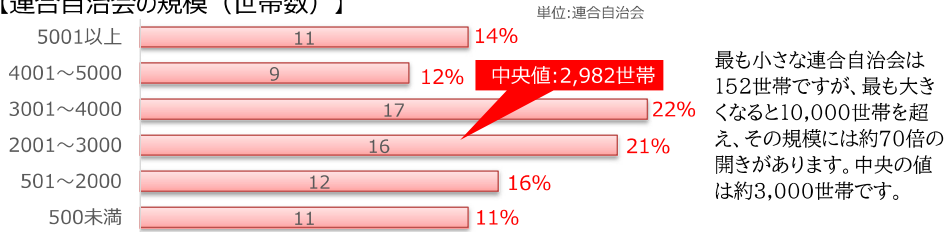


規模が大きい自治会ほど、2年以上の任期の割合が高くなります。そして、規模が小さいほど1年任期が多いので、年度をまたいで活動することが難しいこともわかります。

連合自治会の活動と規模

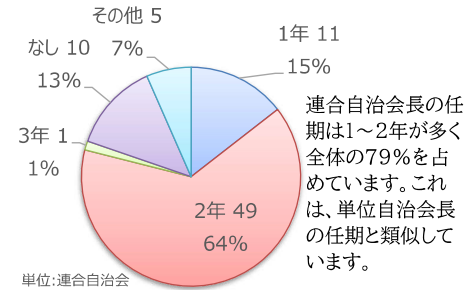
概ね小学校区からなる連合自治会は市内に78あります。規模や活動、任期についてみていきます。

【連合自治会の規模（世帯数）】

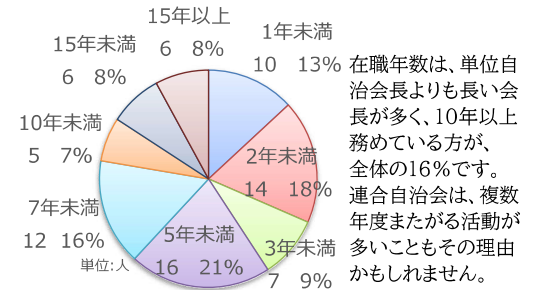


単位自治会長よりも連合自治会長の在職年数が長い

【連合自治会長の任期】



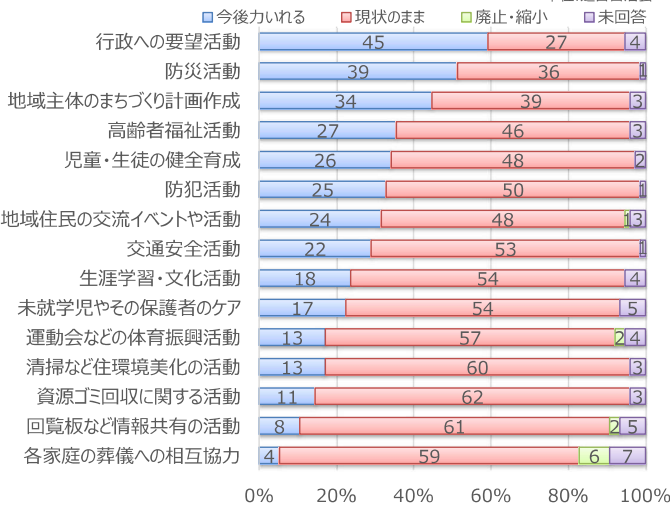
【連合自治会長の在職年数】



現在、連合自治会が中心となって実施している活動ランキング

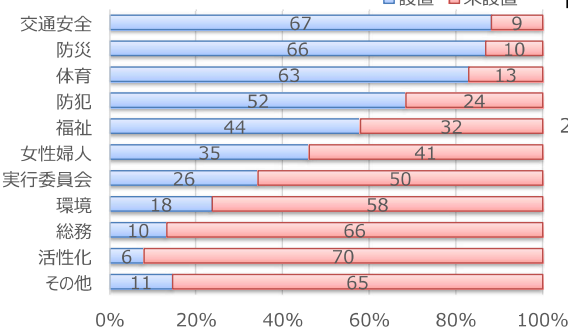
1	交通安全	76
2	防災	75
3	地域住民の交流	74
4	生徒の健全育成	72
5	体育振興	71
6	防犯	70
7	回覧など情報共有	69
8	高齢者福祉	68
9	行政への要望	67
10	清掃など住環境美化	63
11	資源ゴミなどの活動	51
12	生涯学習・文化	46
13	まちづくりの計画作成	40
14	未就学児家庭のケア	37
15	葬儀への協力	31

【今後、各活動をどうしていきたいか？】



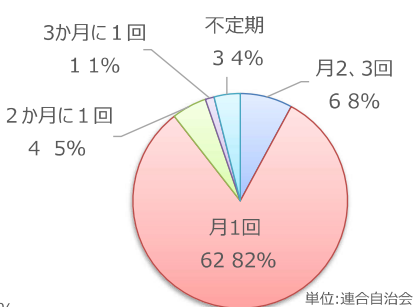
現在の主な活動は、広域的な活動が多く、単位自治会との役割分担ができているようです。今後については現状維持が多いのですが、要望や防災、まちづくり計画の作成は、約半数が力を入れていきたいと回答しています。

【連合自治会の各部会の設置状況】



8割以上が、交通安全、防災、体育振興の部会を設置しており実施している活動と部会の設置は、比例していることがわかります。

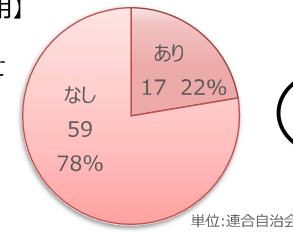
【連合自治会の定例会の開催頻度】



約9割の連合自治会が、毎月1回以上定例会を実施していることがわかりました。

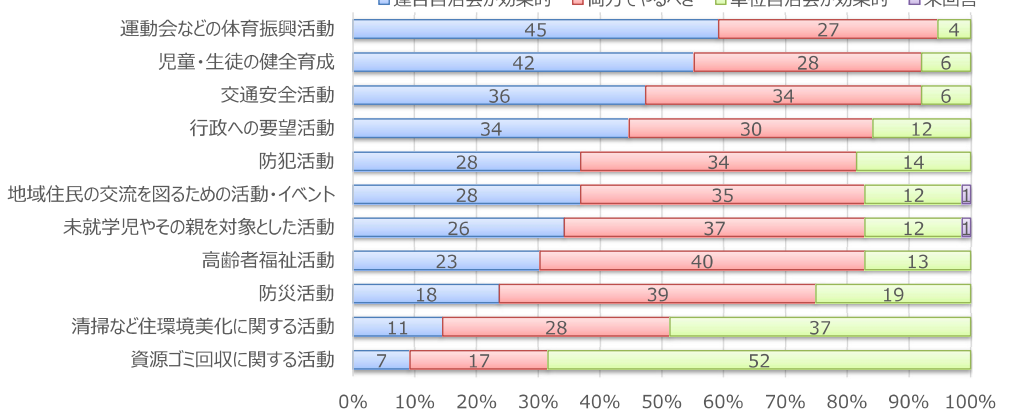
【連合自治会の事務要員雇用】

連合自治会で事務要員を雇用し、事務作業や連絡業務をお願いしている地区があります。自身の仕事で活動に制限がある会長にとっては、助かる存在であるとともに、会長が入れ替わっても途切れることなく活動ができるのが利点です。



連合自治会と単位自治会の役割

【どちらが実施する方が効果的か？】



【単位自治会・連合自治会総合】

連合自治会	両方	単位自治会
体育振興(運動会など)	高齢者福祉	環境美化
健全育成	防災	資源ゴミ回収
交通安全	住民交流	回覧板
防犯	(未就学児対象)	葬儀手伝い

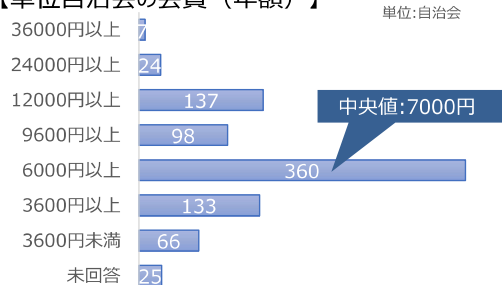
連合自治会は広域的な活動を、単位自治会は局所的な活動を担ったほうが効果的だという結果でした。現在、それぞれが担っている活動とほぼ一致しています。ただ、双方が連携して動く必要がある防災や福祉活動は、互いの役割分担を明確にして活動することで、負担を減らし、効果的に活動ができます。そのためにも役割について今一度確認する必要があります。

自治会活動と会費

自治会活動のお金について語られる機会は、あまりないように思います。今回のアンケートでは会費と、自治会の規模や密度の関係を見ていきます。

会費には10倍の開きがあり、規模や密度も関係している

【単位自治会の会費（年額）】



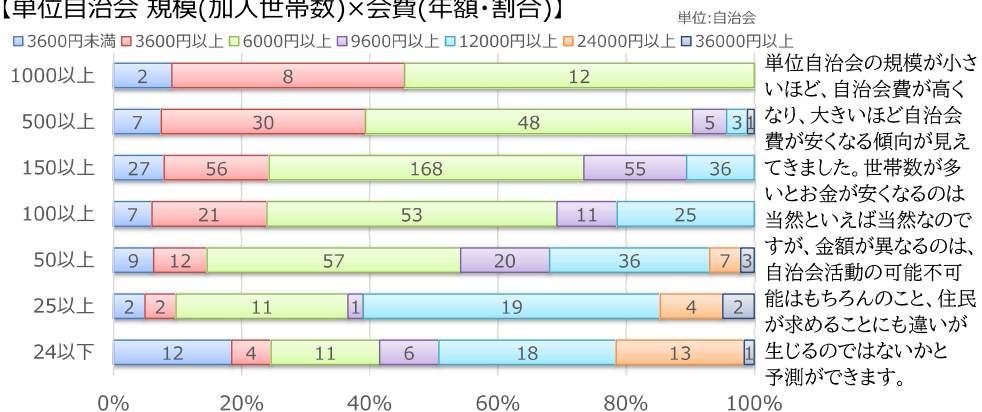
【連合自治会の会費（年額）】



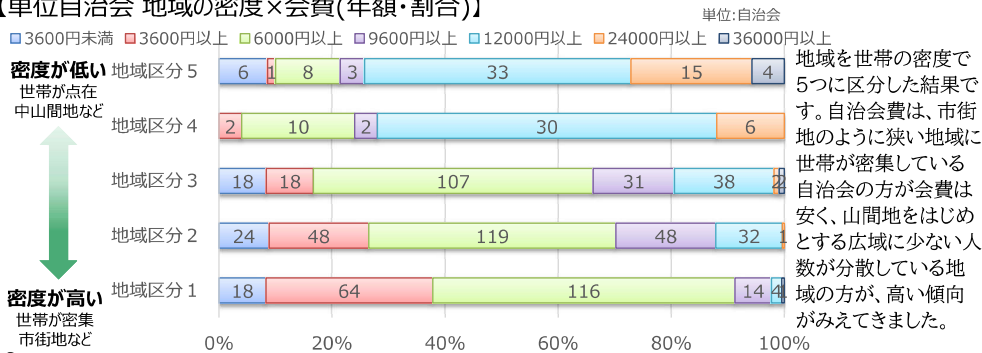
最多は年額6,000～9,600円(月額500～800円)、全体の中央値は年額7,000円ですが、金額の幅は年額3,600円未満(月額300円未満)から、年額36,000円以上(月額3,000円以上)で、10倍以上の開きがあるとわかりました。

連合自治会の会費も、安いところは年額600円未満(月額50円)から、高いところで年額7,200円以上(月額600円以上)集めているところもあり、10倍以上の開きがありました。

【単位自治会 規模(加入世帯数)×会費(年額・割合)】



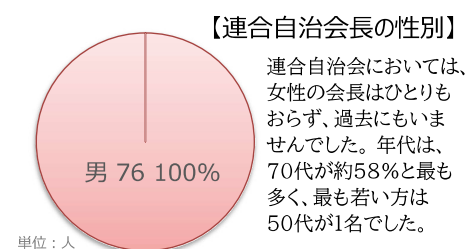
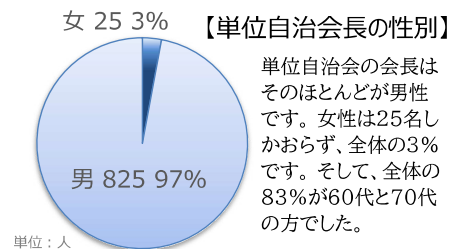
【単位自治会 地域の密度×会費(年額・割合)】



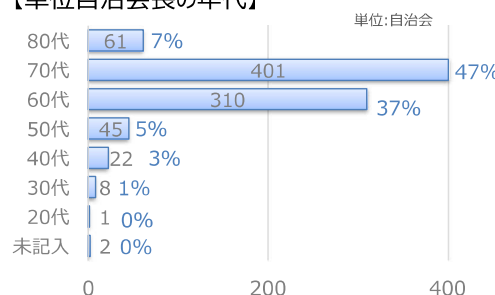
会長の現状

役員の成り手不足は大きな課題です。一体どのような方が会長職を務めているのかを把握することは、対策において必須です。年齢や性別、職業、活動頻度や選出方法について分析します。

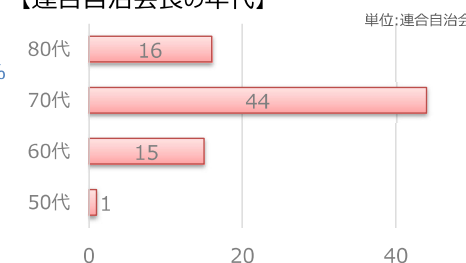
会長職には、性別・年代・職業に大きな偏りがある



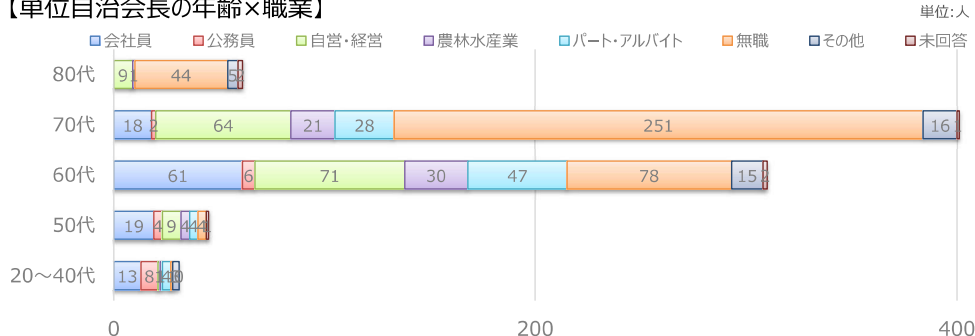
【単位自治会長の年代】



【連合自治会長の年代】



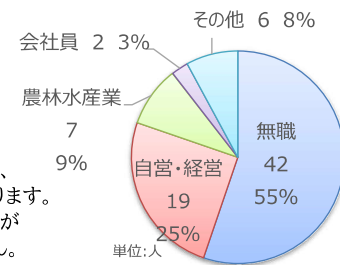
【単位自治会長の年齢×職業】



現在の自治会活動を主に支えている60～70代の会長の職業は無職が最も多く、次いで自営・経営者でした。退職者を中心に、自営など、時間の融通が利く方が、地域活動を支援しています。

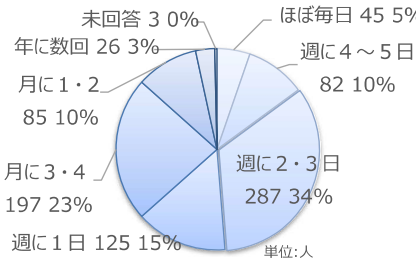
【連合自治会長の職業】

連合自治会長は半分以上が無職で、自営・経営者と合わせると8割になります。連長としての資質には、時間の融通が利くことも含まれるのかもしれませんが。

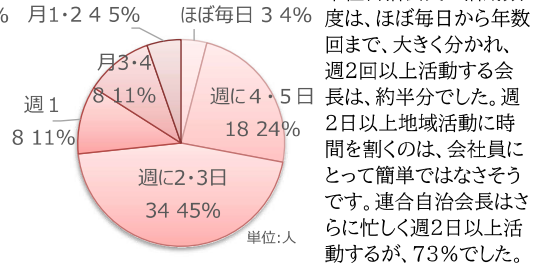


規模が大きくなると自治会長の活動頻度が高くなる

【単位自治会長の活動頻度】

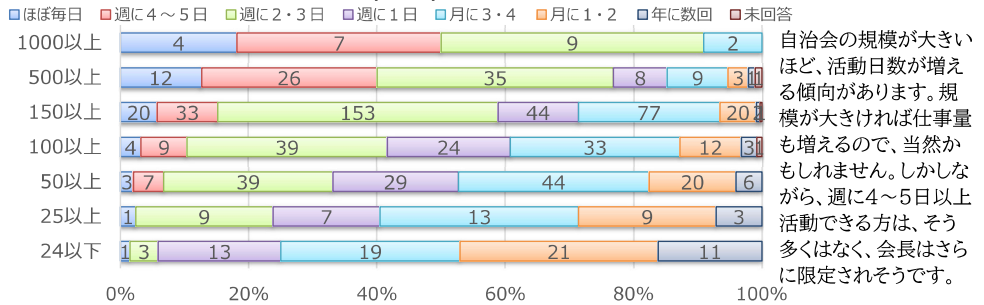


【連合自治会長の活動頻度】



単位自治会長の活動頻度は、ほぼ毎日から年数回まで、大きく分かれ、週2回以上活動する会長は、約半分でした。週2日以上地域活動に時間を割くのは、会社員にとって簡単ではなさそうです。連合自治会長はさらに忙しく週2日以上活動するが、73%でした。

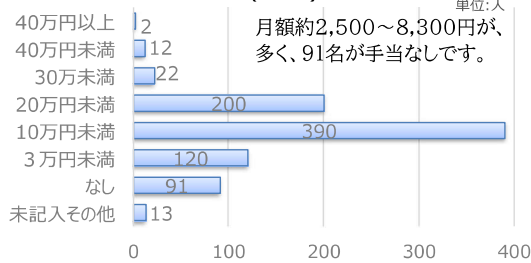
【規模×単位自治会長の活動頻度(割合)】



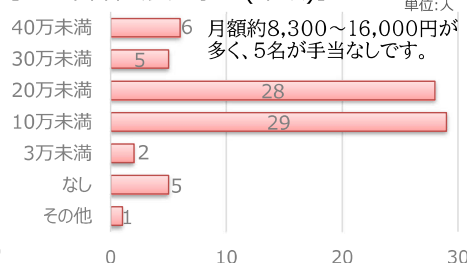
自治会の規模が大きいほど、活動日数が増える傾向があります。規模が大きければ仕事量も増えるので、当然かもしれません。しかしながら、週に4・5日以上活動できる方は、そう多くはなく、会長はさらに限定されそうです。

無償で活動をしている会長はあわせて96名

【単位自治会長の手当(年額)】



【連合自治会長の手当(年額)】

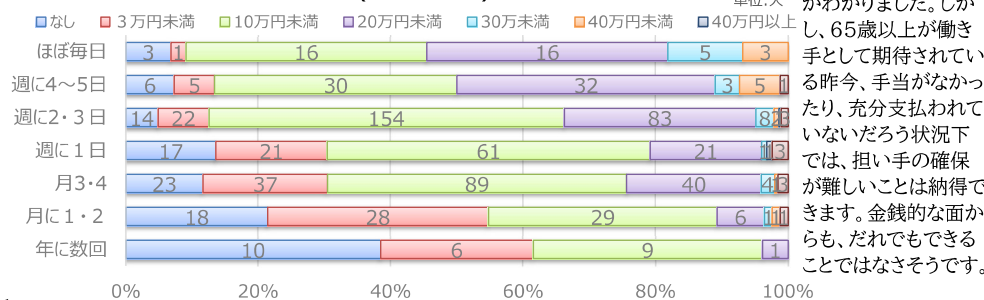


月額約2,500～8,300円が多く、91名が手当なしです。

月額約8,300～16,000円が多く、5名が手当なしです。

従事日数が多いほど手当は高くなる

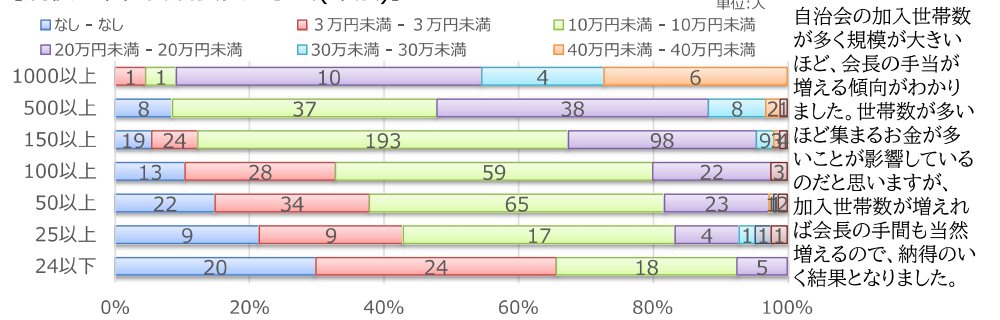
【単位自治会長の従事日数×手当(年額・割合)】



従事日数が増えると手当が高くなる傾向がわかりました。しかし、65歳以上が働き手として期待されている昨今、手当がなかったり、充分支払われていないだろう状況下では、担い手の確保が難しいことは納得できます。金銭的な面から、だれでもできることではなさそうです。

規模が大きくなると、会長の手当が増える

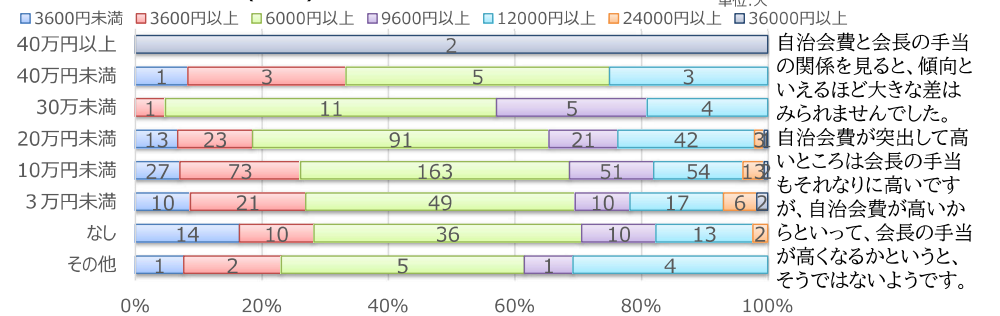
【規模×単位自治会長の手当(年額)】



自治会の加入世帯数が多いほど、会長の手当が増える傾向がわかりました。世帯数が多いほど集まるお金が多いことが影響しているのだと思いますが、加入世帯数が増れば会長の手間も当然増えるので、納得のいく結果となりました。

手当と会費はあまり関係がない

【単位自治会長の手当(年額)×自治会費】



自治会費と会長の手当の関係を見ると、傾向といえるほど大きな差はみられません。自治会費が突出して高いところは会長の手当もそれなりに高いですが、自治会費が高いからといって、会長の手当が高くなるかというと、そうではないようです。

自治会の規模が選出方法に大きく影響

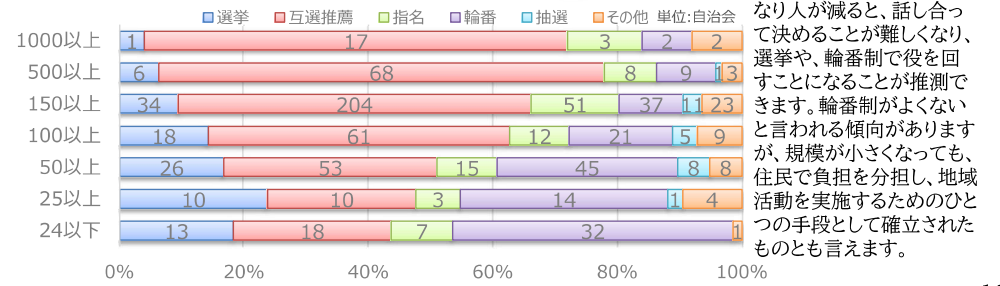
【単位自治会長の選出方法】



互選・推薦で選ばれるのが約半分、よく問題として挙げられる輪番制や抽選は、あわせて2割程度でした。

規模が大きくなると、互選・推薦の割合が増え、小さくなると輪番や選挙の割合が増える傾向がありました。規模が大きくなれば合議が成り立ちやすいのですが、規模が小さくなると話し合っで決めることが難しくなり、選挙や、輪番制で役を回すことになることが推測できます。輪番制がよくなりますが、規模が小さくなると、住民に負担を分担し、地域活動を実施するためのひとつの手段として確立されたものとも言えます。

【規模×単位自治会長の選出方法】

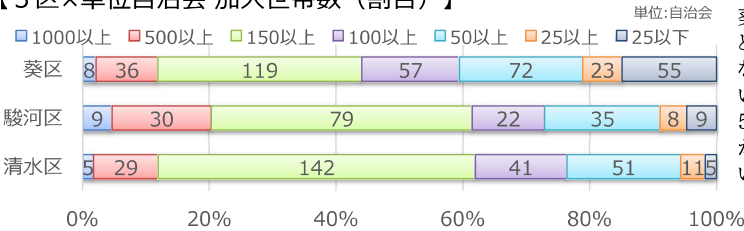


自治会活動と3つの区

政令市の静岡市は、各区が他の市町に相当する規模でもあります。3つの区の歴史は異なり、それゆえに自治も全く同じというわけではなさそうです。

葵区は小さな自治会が多い

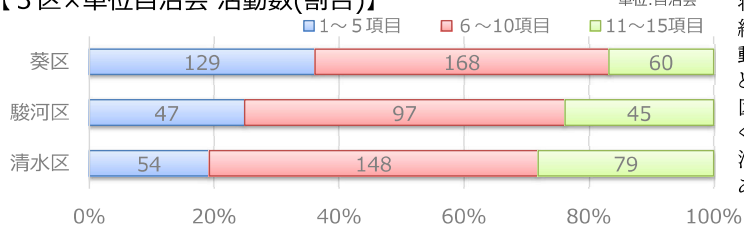
【3区×単位自治会 加入世帯数(割合)】



葵区は、駿河区、清水区と比べると、世帯数の少ない、小さな自治会が多いことがわかります。50世帯未満の自治会が、全体の2割を占めています。

清水区は活動数が多い

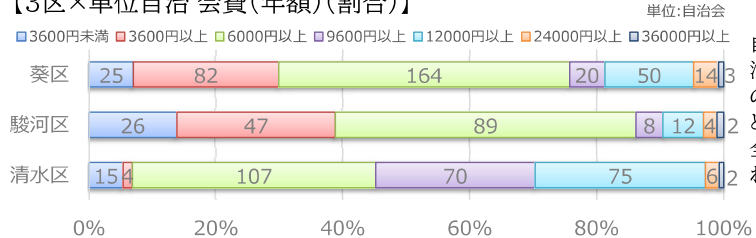
【3区×単位自治会 活動数(割合)】



15の代表的な活動の実施状況から、清水区は赤や緑の割合が高く、数多く活動している自治会が多いとわかりました。一方、葵区は全体的に活動が少なく、これは規模が小さな自治会が多いことと関係がありそうです。

自治会費が高めなのは清水区

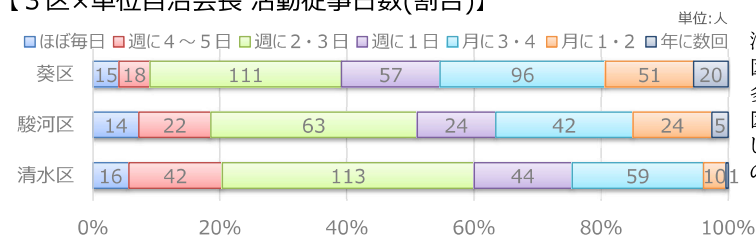
【3区×単位自治会 会費(年額)(割合)】



自治会の年会費は、清水区は6000円以上の単位自治会がほとんど、葵区、駿河区より全体的に高いことがわかります。

会長の活動従事日数が多いのは清水区、駿河区、葵区の順

【3区×単位自治会長 活動従事日数(割合)】



活動従事日数は、清水区、駿河区、葵区の順で多い傾向があり、清水区では週2日以上活動している会長は6割以上の結果でした。

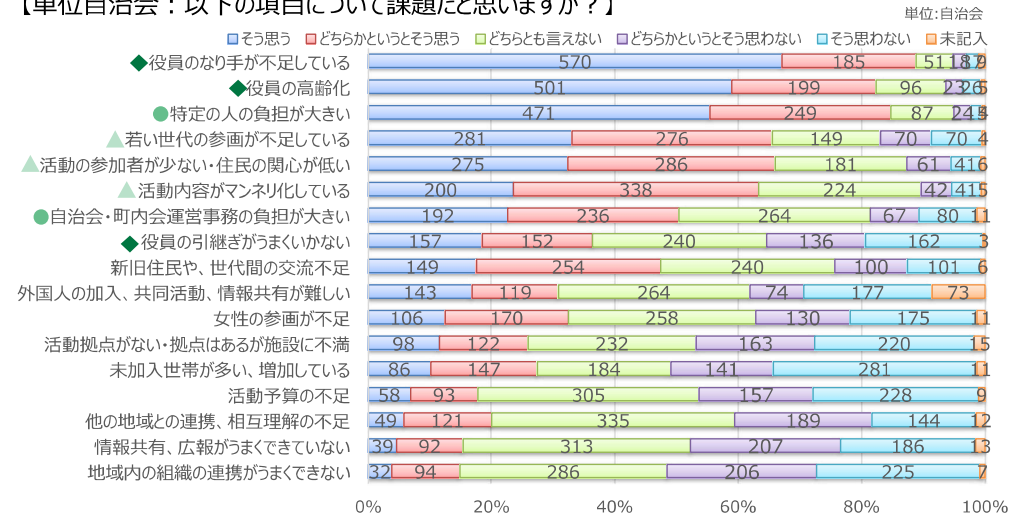
自治会活動の課題

優先して取り組むべき活動には、どのようなものがあるのでしょうか。

自治会活動の課題は大きく3つ

自治会活動で課題だと思っていることの上位8つは、担い手の不足(◆)と活動の負担(●)、住民の参加(▲)、の3つにわけることができます。この3つの課題にすでに取り組んでいる市内の事例をもとに、地域活動のヒントをご紹介します。

【単位自治会：以下の項目について課題だと思いますか？】

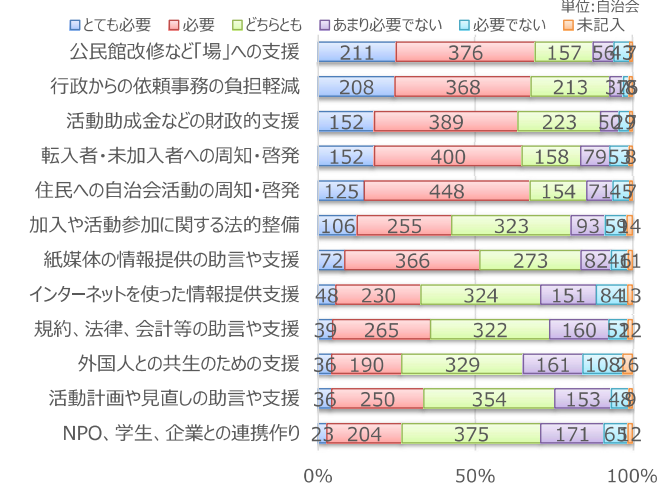


連合自治会が課題だと思う活動ランキング

1	若い世代の参加不足	61
2	高齢化で活動が困難	54
3	役員のなり手不足	52
4	女性の参画不足	48
5	単位自治会の意識の差	47
6	住民の関心の低さ	43
7	活動がマンネリ化	43
8	外国人との共生問題	36
9	未加入世帯の増加	34
10	活動拠点の問題	30
11	運営事務の負担が大きい	26
12	他の連合との連携不足	24
13	住民への広報が不十分	19
14	地区内の組織と連携不足	18
15	予算の不足	16
16	引継ぎがうまくできない	16

行政などから必要なのは場の支援と負担の軽減

【単位自治会：行政や外部組織から必要な支援は何ですか？】



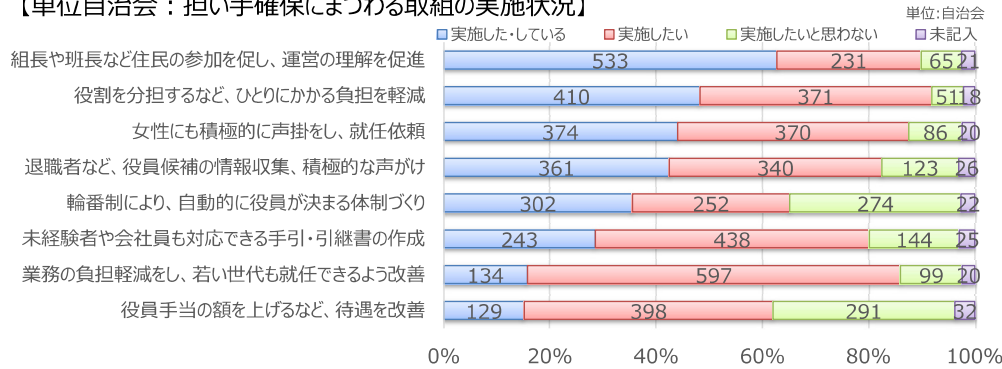
公民館など場への支援に続いて、自治会が行政や外部組織に求める支援は、活動や財政の支援より、配付物をはじめとする依頼事項の削減でした。これは、市役所に限らず、関係団体組織からの依頼や募金活動も含まれているので、事実を明確にし、早急に見直しを進める必要があります。

役員のなり手にまつわる工夫

アンケートからわかった傾向

- ・役員のなり手不足に悩む自治会は全体の88%と非常に多く、一番の課題となっている。
- ・声かけや、選出の工夫をしても、毎年苦勞をしている地区が多い。
- ・課題解決のための取組まで実施している地区は、あまり多くない。
- ・改善のために取り組みたいと思っていることは多い。
- ・高齢化と若い世代の関心の希薄化が、なり手不足の大きな要因となっているという意識。

【単位自治会：担い手確保にまつわる取組の実施状況】



担い手の確保にまつわる取組は、人探しとともに、自らの組織の在り方を振り返り、改善することも含まれます。活動や役職の見直しによる活動の負担軽減や、手引書・引継書など、事務環境を整えることで次の担い手に支障なく引き継げることは、役員の負担感を減らしていく、重要なポイントでもあります。

アンケートからわかった役員のなり手にまつわるポイント

- ・若い世代や会社員でもできるようにする
- ・女性の担い手を増やす
- ・世帯が少なく人材も限られるので規模を検討するのも選択肢のひとつ
- ・業務の負担を検討する（見直し、分散、サポートなど）
- ・引継ぎや業務内容を簡素化し、だれでもできるようにする
- ・業務にまつわる金銭的な負担を軽減する（ガソリン代、通信費など）

単位自治会 担い手確保のために実施したい取組ランキング

順位	取組	回数
1	業務の負担軽減	597
2	手引き書・引継ぎ書の作成	438
3	手当見直し等待遇を改善	398
4	ひとりにかかる負担を軽減	371
5	女性への就任依頼	370
6	候補者への積極的な声かけ	340
7	輪番制の導入	252
8	住民への運営の理解促進	231

改善のために取り組みたいことは多い

70.2%が実施したい

17ページ事例参照

実施したい取組の多くが、自治会内で検討できる内容でした。特に手引き書・引継書の作成は、日々の記録を日記のように残すだけでも大きく違います。

今の役員が「大変なこと」だと思っていることは、きっと次の役員にとっても「大変なこと」です。早い改善が望まれます。



01 若い世代や会社員でも引き受けられるようにする工夫

- ・役員の仕事は極力休日（土、日、祝）に行い、会合も休日の夜間（19時前後）を基本としています。
- ・若い世代が参加してくれるお祭りなどの際に有志を募り、そこから自治会活動への協力をお願いしています。
- ・体育振興会など若手が担っている団体から役員などお願いしています。（アンケートより）

事例①「若手が得意なことを任せる」

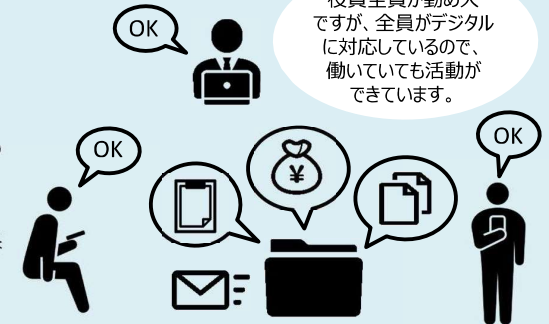
- 1) ITに詳しい若手を発見
- 2) 協力をお願いして「IT委員」を設立し、若手に任せる
- 3) ホームページ、ブログを開発
自治会館のWi-Fi環境整備を行う
- 4) 高齢者に頼まれ「LINE教室」を開催
- 5) 防災委員に任命
- 6) 防災で安否確認をLINEで行い、デジタル化に取り組む
- 7) 組長や自主防災でLINEグループを作り、連絡を開始
- 8) 組長LINEグループで定例会のライブ配信をスタート



高齢者のためのLINE教室は好評。その後LINEを活用し、様々な活動をはじめました。

事例②「デジタル化を進め、組織として運営する」

- 1) 書類を文書化し「様式集」を作る
 - ①分類され誰でも理解しやすくなる
 - ②更新が容易にできる
 - ③引継ぎが簡素化される
- 2) 役員連絡や会議はメールやSNSで行う
 - ①届ける手間・時間が省ける
 - ②好きな時に確認や連絡ができる
- 3) 負担を最小限にして説明→担い手確保
- 4) 必要品はインターネットで調達
- 5) 会計もフリーソフトで自動化



役員全員が勤め人ですが、全員がデジタルに対応しているので、働いていても活動ができています。

02 女性の登用にまつわる工夫

- ・高齢者のためのサポートや、防災ボランティアに女性に入ってもらうようにしています。
- ・女性に役員をお願いすると、他の女性も役員を引き受けやすいようです。（アンケートより）

事例①「女性と対話をする」

- ・「女性だから」ではなく、能力主義で進める
- ・女性の意見にも耳を傾け、活動へ反映する
- ・ひとりずつ声をかけていく
- ・命令せず「何をしたいのか」を訪ね自主性を尊重する
- ・失敗してもOK、やりながら工夫すればいいと伝える

事例②「規約に盛り込む」

- 1) 女性の役員枠を作り、規約に明記する
 - 2) 「なぜあなたなのか」を明確にして伝える
 - 3) 家族の理解を得ることも大切
- ※強硬な手段ではありませんが、会長が本気で取り組むことで女性の役員が誕生し、会議が活発になり、イベント等がやりやすくなった

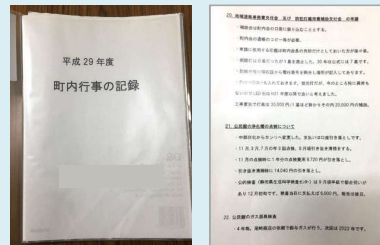
03 安心して役員を引き受けられるようにする工夫

(アンケートより)

- ・担当や役割の分担を進め、事前に具体的な活動内容を伝えるよう努めています。
- ・自治会活動の内容を周知することで住民との距離が近づくと考えています。
- ・活動に関する移動交通費を自治会で負担しています。
- ・理事の半数が交替する2年制を引いているので引き継ぎが比較的うまくいっています。
- ・2年前から自治会長が次年度に副会長で残るようにして、新自治会長の助言とフォローを行う体制にしました。

事例①「記録を残して引き継ぐ」

- 1) 日記のようにすべての活動を記録する
※どこでいくつ購入し準備したなど詳細まで記入する
※思ったこと、反省なども残す
- 2) 配布物はデータと紙でファイルにしておく
※パソコンが使えない人のために紙でも残す
※紙もデータも日付だけ変えればよいようにしておく
- 3) 次の会長へ引き継ぐ



まとめなくても、様々な記録を残して次の人へ渡すだけでも、次の会長は楽になります。

事例②「自治会・町内会ガイドブック」

自治会長が、自治会が何のためにあるのかをわからないままに活動していた。その対策として、駿河区自治会連合会が作成したガイドブック。自治会の目的や運営方法、各種活動についてなど、自治会にまつわるさまざまなことがわかりやすく書かれています。詳細については駿河区自治会連合会へお問い合わせ下さい。



事例③「応援団として有志の会を設立」

- 1) 組長はほとんどが輪番制で決まる
- 2) 高齢の方や働いている方も組長を担う
⇒できないこと・やれないことが出てくる
⇒活動の負担が大きい
- 3) 自治会をサポートする任意の組織「応援団」を作る

【活動内容】

- ・町内行事の運営手伝い
- ・環境美化活動
- ・役員をサポート
- ・桜並木の維持活動
- ・環境美化など、各種団体の活動も手伝う

【利点】

- ・町内会の仕事内容を知ってもらえる
- ・今後の担い手予備軍として自治会を支える存在へ

このような人が応援団に…

- ・自治会役員のOB
- ・町内っておもしろそうだなという人たち
(現在18名ほどで活動している)



事例④「2年制にして1年目は準備期間とする」

- 1) 1年交代だった役員を2年制へ変更
- 2) 新会長には、1年目は副会長になってもらう
- 3) 1年間、会長とともに活動し、準備をしてもらう
- 4) 継続して活動や事業の検討ができたようになった



04 役員の出選にまつわる工夫

(アンケートより)

- ・イベントによく来てくれる方は活動に対して理解もあり協力的なので、役員就任のお願いをしています。
- ・主要3役は町内を3ブロックに分け、各ブロック1名の代表を選出し、その三人の中から会長を選んでいます。

事例①「2年制任期とまちづくり委員会の併用」

2つの工夫を併用することで、様々な効果を得られ、比較的スムーズに役員を決めることが可能になったようです。まちづくり協議会からヒントを得た事例です。

1) 2年交代の輪番制

- ⇒2つのグループにわけて任期を1年ずらす
- ⇒輪番制のため選出にさほど困らない
- ⇒一度に全員が入り替ることがないので業務の引継ぎがスムーズにできる
- ⇒中長期の計画も可能になる

2) 「まちづくり委員会」

- ⇒任期のない有志の組織(役員OB等一本釣りでスカウト)
- ⇒現役役員のサポート(行事手伝い・相談など)
- ⇒専門性のあることもやる(配線・剪定など)
- ⇒会社員が会長の場合には平日の代理申請などもする

・今は過渡期？

ライフスタイルや価値観の変化

スマートフォンなどのデジタル機器の進化により、若い世代を筆頭に、価値観やライフスタイルが大きく変化をしています。このような時代に、次の世代が参加しやすい自治会活動を探るには、非常に柔軟な思考が求められます。

バランスよく少しずつ

デジタル化など手法の変更は、0か100かではなく、少しずつ、バランスをとりながら変化をすることが、必要とされている時のようです。多様性を認めながら、得意なことは得意な人に任せ、時間をかけていくことがポイントなのかもしれません。

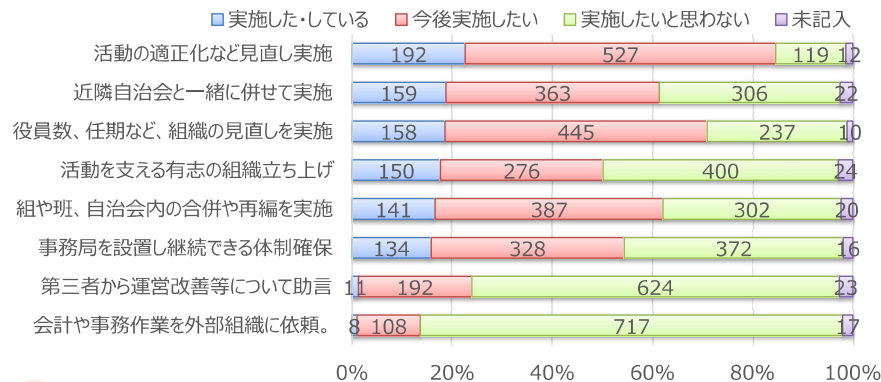


活動の負担にまつわる工夫

アンケートからわかった傾向

- ・現職の会長も、自治会活動に負担を感じており、改善をしたい意向は強い。
- ・どのように負担を軽減すべきがよくわからない。
- ・負担軽減のために見直しをしたいが、やり方がわからない、時間がないなど、なかなか進められずにいる。
- ・役員や三役などのやりとりはLINEなど、SNSを活用している人が増えている。

【単位自治会：見直しに関する取組の実施状況】



アンケートからわかった負担軽減のポイント

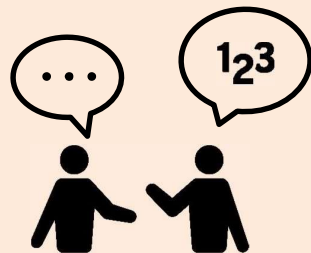
- ・一体ながどのように負担なのかを正確に、数値化や聞き取りを行い把握する。
- ・現在の活動を洗い出し、見直し、必要なら適正化することが負担の軽減につながる。
- ・班や組の再編成は単年度で終わらないので、複数年かけて変えていく計画を作り取り組む必要がある。

01 現状を正しく把握して活動する

- ・今後の祭りイベントについてアンケート調査を実施。アンケート内容の検討委員会を開催予定です。
- ・組の編成についてアンケートを実施し、再編成への調整を行っています。
- ・何に困っているのかを聞いて、それに対してできることをするように心がけています。(アンケートより)

事例①「洗い出し、数えて、住民と共有し見直す」

- 1) 各種団体と町内会の1年間の行事・活動・会議を全て書き出す
- 2) 一覧表にして、数えて、「負担に見える化」する
- 3) どの程度負担があるかわかったところで、全戸に配布し、見直しの必要性を共有する
- 4) 共有ができたら負担を前提に、どのように見直すかを計画する
- 5) 見直しの計画を共有し、次年度へ反映
- 6) 数年間繰り返すと「見直しの必要性」が当たり前になり、大小さまざまな見直しが進む



事例②

「全住民にアンケートを実施」

- 1) 中学生以上の全住民を対象にした自治会活動全般についてのアンケートを実施
- 2) アンケート実施の事前説明を丁寧に行い、できる限り多くの住民に回答してもらう
- 3) アンケートの結果を、集計して分析
- 4) 段階的に住民と共有し理解促進
 - ①回収のお礼状配付
 - ②集計速報を配付
 - ③結果報告会の開催
 - ④結果報告冊子を配付
- 5) 結果から優先順位の高い課題に取り組む

● アンケート実施のポイント

1. 誰が実施するのか ⇒ 課題に取り組む人が実施
2. 何のためにとるのかを共有 ⇒ 住民の巻き込み・理解促進
3. アンケート作成には時間をかける ⇒ ひとりで作らない
4. 課題にあわせたアンケートを設計
 - ⇒必ず全員にとる必要はない、必要な人を対象にする
5. 自由な意見を言うように無記名・封入方式とする
6. 課題になっていることは先の展開についても想定して聞く
7. 集計のあとに分析をする
 - ⇒分析のために基礎情報を聞く(年代、性別、地区など)
8. アンケート結果を返して住民と共有する
 - ⇒住民・関係者を巻き込み、今後の改善へつなげる

事例③「他の自治会と情報を共有し、活動の目的を見直す」

- ・集合住宅のみの自治会特有の問題に直面
- ・同じ生活環境、特性のある大規模集合住宅(マンション)間で情報交換会を実施
- ・各マンションの活動について、情報共有が進んだ
- ・引き続き開催できるようにであれば「防災活動」のみメインにした情報交換会を行いたい

02 行事・活動の見直し

- ・敬老会を自治会独自で行っていましたが、連合自治会と合同で開催する予定で進めています。
- ・組織を見直し、続けて活動内容の点検をし、改革を行っています。
- ・子どもを活動させる企画に高齢者の参加を促し、居場所づくりの一本化を目指しています。
- ・水害時に対応できる女性を中心とした検討委員会の設置を検討しています。
- ・行事のスリム化、単純化、だれが役員になっても見直しをもってできるようにしていきたいです。
- ・交流が少ないという住民の声を反映し、一斉清掃後にバーベキューを実施。好評で恒例となりました。
- ・高齢者でも楽しめる「ら〜く楽運動会」を開催しています。(アンケートより)

事例①「あわせる」 行事をあわせたり、共同で実施したり、負担を減らしかつ効果をあげる。

- ・放水訓練+側溝掃除(自主防災の放水訓練時に側溝の掃除をすることで負担軽減かつきれい)
- ・運動会のお昼ご飯+炊き出し訓練(お昼ご飯を炊き出しにすることでコミュニティも活性化)
- ・隣接する自治会と合同で実行委員会を立ち上げて夏祭りを開催

事例②「必要とされることを想定して見直す」

- 1) 毎年ただ更新し続けてきた「避難行動要支援者名簿」の活用疑問を持つ
- 2) 名簿を共有している民生委員と災害時の想定について検討する
- 3) 名簿の内容を確認し、災害時の対応を検討する必要性に気付く
- 4) 民生委員と自治会長で支援対象者宅を訪問
- 5) 発災時の対応を協議して分類

分類の例

- ⇒自主避難ができる方
- ⇒助けがあれば避難ができる方
- ⇒避難に車両などが必要な方
- ⇒専門家の支援が必要な方
- など

03 会議の見直し

- ・必要な時にだけ会議を開催することにしました。
- ・招集の理由がわからないまま集められていた出席者を見直し、減らしました。(アンケートより)

事例①「LINEを活用」

- 1) 30代の若手が役員として登場
- 2) 役員全員の携帯にLINEを設定し、コロナ禍もありみんなでLINEに挑戦
- 3) 今では規約の変更案をLINEで確認できるようになった
- 4) 集まる機会が減り、負担の軽減になった



04 組織・業務の見直し

- ・近隣の自主防災会と合同で訓練をはじめました。
- ・他力本願な活動から、自主性のある自治会へ改善中です。婦人部や総務部を創設しました。
- ・雑用的な業務はできる限り縮小しています。(アンケートより)

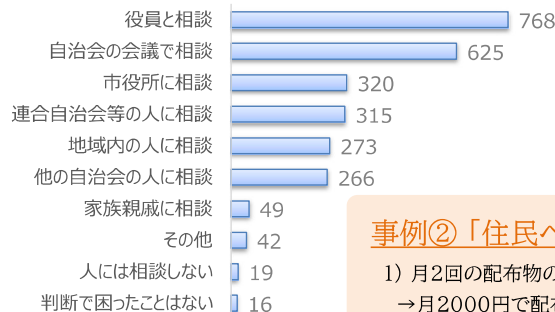
事例①「問題に取り組める組織へ見直し」

- 1) 課題となっている高齢者の福祉に取り組めるように、自治会内に福祉部会を設置
- 2) 部会には、福祉の専門的知識がある自治会役員以外の住民にも参加をしてもらう
- 3) 専門家が部長となり、問題となっていることの調査・検討を開始
- 4) 今後は、防災など他の部会も設置し、必要とされていることについて複数年で活動できるようにしたい

05 特定の人への負担軽減の工夫

- ・町内会役員以外の有志の参加、組織作りを積極的に進めています。(アンケートより)
- ・水害時に対応できる女性を中心とした検討委員会の設置をしました。
- ・行事のスリム化、単純化、だれが役員になっても見通しをもってできるように検討しています。

【単位自治会 困ったとき、誰に相談していますか？】



身近な人に相談することが多いことがわかりました。前任者が翌年も自治会の役員として残り、新役員をサポートするような2年制などは、とても有効な工夫だと思えます。

事例①「お助け隊」

自治会を助けてくれる有志の「お助け隊」
 ・主に草刈り、剪定など住民の困りごとに応じる
 →自治会費から年間10万円で5~6人が担当
 →総会で了承されている

事例②「住民へ募集をかけて、業務を委託」

- 1) 月2回の配布物の仕分け作業を委託
 →月2000円で配布物の仕分けを委託
 →総会で承認
 →規約を変更
 →自治会内の人を公募(4人応募→先着1名に決定)
 →2年契約で実施



見直しポイント

◆行事・活動の見直しポイント

最適化により、負担の軽減はもちろん、効果が高まることが多いです。

①何のため、誰のため？～みんなで確認しませんか？～

行事、活動の目的は何ですか？	一番大切です。長く活動をする、目的とは異なり、実施することが目的になっていることもあります。みんなで確認をすると、新しい発見も出てきます。
参加者の年齢が変わっていませんか？	子どもが減り、高齢者が増加。昔と同じ活動で、目的が達成されますか？
参加者は減っていませんか？	会社員や共働き世帯の増加、少子高齢化など、参加者が減る要因は多々あります。必要とされている内容へのシフトチェンジが必要かもしれません。

②活動内容を確認～詳細について今一度検討しませんか？～

目的と内容はあっていますか？	目的とあつた活動への最適化は済んでいますか？目的が活動の推進なら、会議やイベントより、活動の時間を増やしませんか？
内容を変えた方が、効果が上がりませんか？	住民が必要としていることに直接対応できる活動の方が、効果は高いですよ。活動内容の見直しを定期的に行いましょう。
どうせ、やるならしっかりと。	適当にやっても、本気でやっても、同じ時間がかかります。ならば、しっかり結果を出せるようにしませんか？

③併せる、たまにやる、やめてみる～では、具体的にどうしたらいいの？～

他の団体や地区が同じような行事や活動をしていませんか？	人手は減り、高齢化も進んでいます。同じような活動をあちこちでやるのが負担になっていませんか？
他の団体、地区と一緒にやった方が効率的、効果的ではありませんか？	併せることで、負担を減らし、効果を上げることも。やれなくなるなら、併せて残すことも
隔年、たまにやる、他の行事と交互、思い切って休む	2年に一度とかでも良い行事も。思い切った一度やめてみるも
有志が中心でやる・実施者を見直す	町内全体でやるべき行事と特定の団体がやるべき行事が混同していませんか？(販売が主たる目的であれば、プロである販売関係者が中心になったほうが効果的かもしれません)

◆会議の見直しポイント

貴重な時間を割いて集まる会議。できる限り効率よく行いたいものですよ。

会議の目的をもう一度考えましょう	情報伝達なのか、意志決定なのか、意見聴取なのか、そして必要なか。
会議の開催日を考えてみましょう	違う会議なのに参加者がほぼ同じ。ならば、同じ日に時間を変えて開催しませんか？
情報提供や、結果報告なら、会議を開く必要はないのかも。	情報の提供や共有、結果の伝達だけなら紙の配布や、FAX、インターネット、携帯で資料を撮影して送付なども有効です。インターネットの活用は、情報伝達が早く、費用も安いので、便利です。若い世代に限らず、LINEで一斉連絡をするような人が増えています。
参加者全員が、意見や情報提供を言える場にしませんか	せっかく集まってくれた様々な世代の人が、思うことを言わない会議は、もったいないと思いませんか。

◆組織の見直しポイント

組織を継続していくために必要な組織のサイズ。人が減っていくなかで、再度検討する必要があるかもしれません。

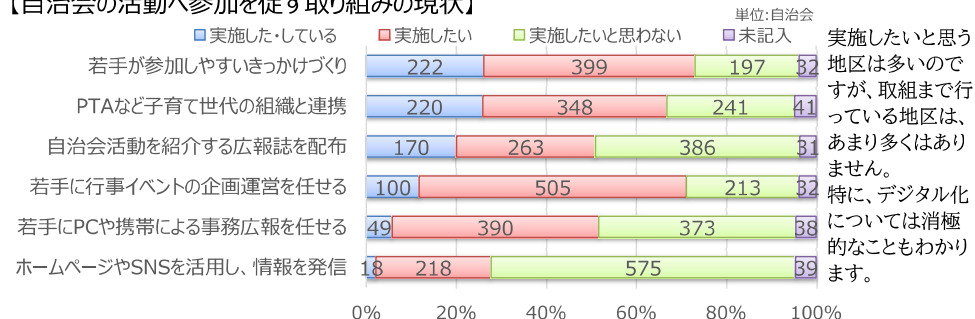
役員の数が多すぎませんか？	実際に活動をするのか、会議に出るだけなのかあて職になっていませんか
同じようなメンバーの同じような組織がありませんか？	メンバーがほとんど同じなら、合併するほうが、効率的。
依頼事務が負担になっていませんか？	困っている旨を整理して、行政・関係機関に相談しましょう。依頼事務の負担の現状が、伝わっていない可能性があります。

活動への住民参加の工夫

アンケートからわかった傾向

- ・自治会への非加入世帯は集合住宅に多い傾向がある。
- ・ほとんどの世帯が加入している地域も多く、非加入者の問題には地区の温度差が大きい。
- ・非加入者が多い地域の中には頻りに転入・転出が繰り返される地域があり、実態の把握が難しい。
- ・若い世代の活動への参加が少ないと感じている。
- ・活動に参加しなくなってきた高齢者についても問題だと感じている。

【自治会の活動へ参加を促す取り組みの現状】



実施したいと思う地区は多いのですが、取組まれている地区は、あまり多くはありません。特に、デジタル化については消極的なことわかります。

01 若い世代から高齢者まで広く参加できる工夫

- ・役員の仕事は極力休日(土、日、祝)に行っています。会合も休日の夜間(19時前後)を基本としています。
 - ・若い世代が参加してくれるお祭りなどの際に有志を募り、そこから自治会活動への協力をお願いしています。
 - ・体育振興会など若手が担っている団体からお願いしています。
 - ・餅まきやライブイベントの運営を若者グループが担ってくれています。
 - ・自治会役員の話し合いでは、特に若手と話し合うことを大切にしています。
- (アンケートより)

事例①「住民のニーズに応じたイベントを開催」

- 1) 住民の声を聴く
- 2) 各世代求めていることが違うので、住民の声に応じたイベントを開催。
- 3) 高齢者には、文化展や農産物の即売会など、趣味を披露できるような場を提供し、子育て世帯にはレクリエーションで楽しむ一日を提供。

世代が違えば、考え方も必要としていることも異なります。ひとつの行事に大勢が参加することを目的とするのではなく住民の声を聴き、必要とされるイベントを複数開催することで、住民参加が増えた事例です。



事例②「防災活動を交流イベントとあわせる」

- ・年度はじめの4月に交流イベントと防災資機材体験会を開催
- ・100円の参加費で、福引やゲームの景品、焼きそばや飲み物ももらえる
- ・楽しんでもらいながら、自治会長の顔を知ってもらい、かつ防災資機材に触れてもらうことで、目的を達成しながら広く住民の交流もはかれる



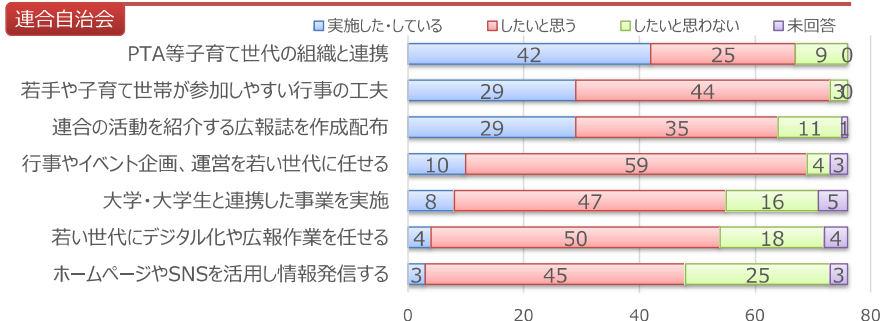
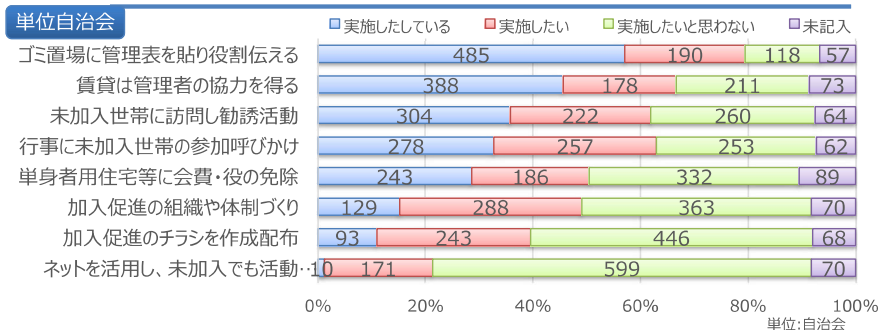
事例③「誰でも参加できるイベントを開催」

- 1) 子どもがすべての企画を無料で楽しめる夢のような夏祭りを開催
- 2) 近隣自治会からの参加もOKとする
- 3) 多くの親子連れが楽しみに訪れるようになり、あわせて高齢者も参加するようになった
- 4) 自治会について知って、関心をもってもらうきっかけとなった

02 加入促進のための工夫

- ・年1回の夏祭りで、防災部への勧誘を行っています。
 - ・未加入世帯(空き家を含める)には勧誘活動を徹底しています。
 - ・加入は、世帯又は1人1人の意識の問題なので参加を強制するのではなく、チラシやパンフレットで行事の宣伝や、組単位の活動(清掃、側溝掃除)の説明を繰り返し、理解してもらうようPRしています。
 - ・自治会活動の意義や、活動を行う側・受ける側の価値観の変化もあり時代は多様化してきています。加入促進の前に加入に十分応えられているか検討しておく必要があると思います。
- (アンケートより)

【自治会への加入促進に対する取り組みの現状】



アンケートからわかった加入促進のポイント

- ・誰でも参加しやすいイベントを実施し、自治会の活動に関心をもってもらうことから始める
- ・何をしているのかを知ってもらうことから始める
- ・価値を感じ、加入したいと思ってもらえるような必要とされている活動をする

事例①「自治会の目的や加入のメリット・デメリットをきちんと伝える」

住民に自治会についてわかりやすく伝えることで、自治会活動の理解を促し、入会をすすめている。ただし、加入が強制ではないことも明記。

【掲載されている内容】

①自治会の目的と活動の詳細(地域の安心・安全)

- ・ふれあい活動の目的(コミュニケーションと顔見知りづくり)
- ・防犯活動
- ・防災活動+被災時に自治会がどう動いたかという事例
+自治会の炊き出しは自治会員が優先される

②どのようなイベントがあるのか(日程とともに)

③どのような団体があり、どのような活動をしているのか

④組について

- ・輪番で組長がまわってくる
- ・どのようなことをするのか(定例会の所要時間15分も明記)
- ・自治会は組に対して何をするのか

⑤ゴミ出し・防災活動についてなど

⑥会費はいくらなのか

⑦連絡先(電話・メール)

ポイント

- ・自治会の加入が強制ではないことを伝える
- ・そのうえでなぜ自治会が必要なのか、自治会が担っている役割を明確に伝える
- ・会費、組長になったら何をするのかについては、具体的に詳細まで伝える
- ・地域防災の必要性を説き、災害時に自治会がどう活躍したのかを数字で伝える



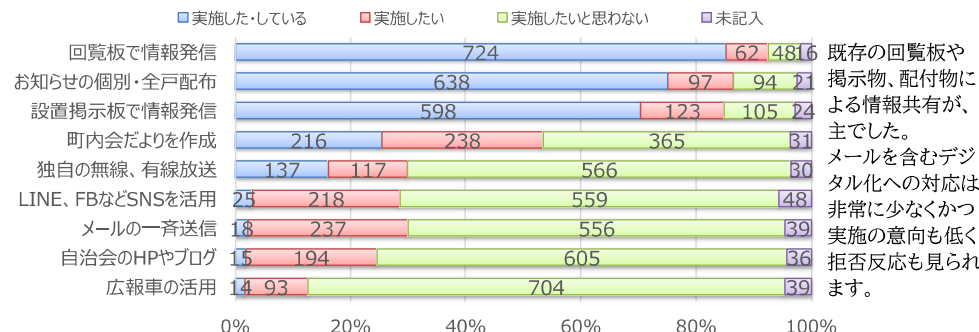
裏面の詳しいご入会案内を是非ご覧ください。

04 広報や情報共有の工夫

(アンケートより)

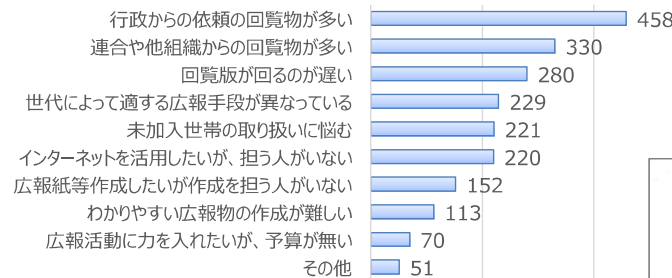
- ・毎月「自治会だより」を発行しています。
- ・毎回、回覧の内容をまとめて表紙を作成して回覧板を廻しています
- ・定例会の資料は従来より文字を大きくし内容も高齢者が理解できるような資料作りを心掛けています。

【広報・情報共有の取組実施状況】



既存の回覧板や
掲示物、配付物に
よる情報共有が、
主でした。
メールを含むデジ
タル化への対応は
非常に少なくかつ
実施の意向も低く
拒否反応も見られ
ます。

【広報・情報共有の課題】



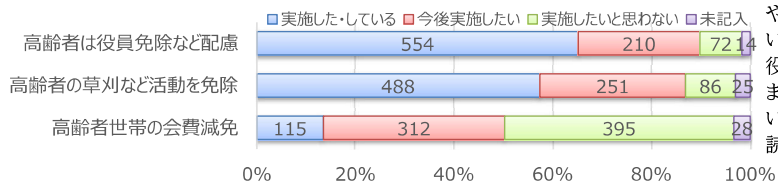
情報共有の一番の課題は、配付物の負担でした。次いで速報性に対応できない回覧板の限界も見えています。しかし、デジタル化や広報の充実には人材不足が課題となっているようです。

03 高齢が理由の退会希望者などに対する工夫

- ・退会の前に考えてもらうよう、自治会の必要性についてまとめ、時折回覧でまわっています。
- ・高齢者へ配慮し、組長判断で役の免除や、会費の減免を実施しています。
- ・やれることをやってもらうようお願いしています。

(アンケートより)

【高齢者の自治会参加に対する取組】



高齢者への対応は、組長や班長の判断に任ざれているケースが多く、活動や役の免除は実施されていますが、会費の減免については難しいような傾向が見取れます。

事例①「準会員制度を設ける」

- ・高齢者で自治会費年9600円が払えない準会員制度を設け会費の減額を実施
- ・防災や見守りのために、準会員制度を設け、年5000円の会費を年500円に減免
- ・通常の見守りは回覧板、市発行の広報など重要なお知らせについてのみ、役員が直接配付をする

事例②「ショートメールの活用」

- ・携帯の番号に文書を送ることができるサービス
 - ・役員への事務連絡に使用
 - ・携帯電話を持っていれば誰でも使える
- ※一斉送信できないのがデメリット

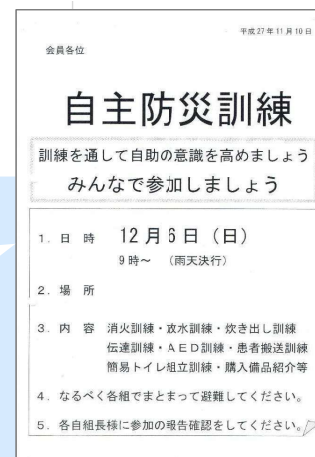
事例③「LINE公式を活用」

- ・自治会で公式LINEを所有し、情報発信に活用
- ・月に数回の頻度で様々な地域限定の情報を発信(防災・防犯・工事・イベント・お店の紹介・各種活動等)

事例①「伝わる資料を作る」

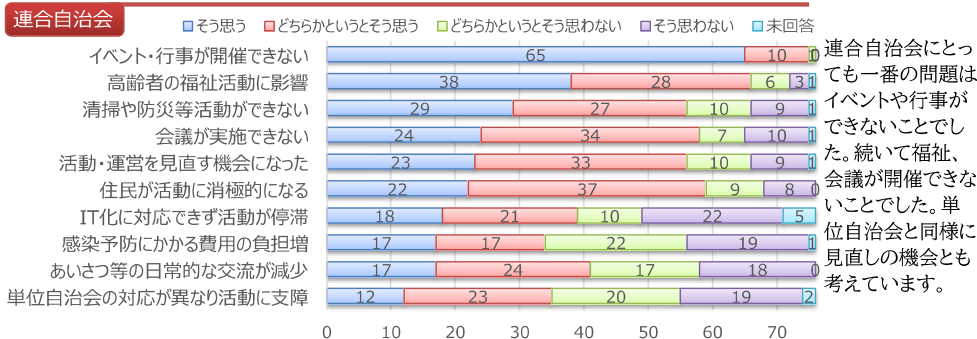
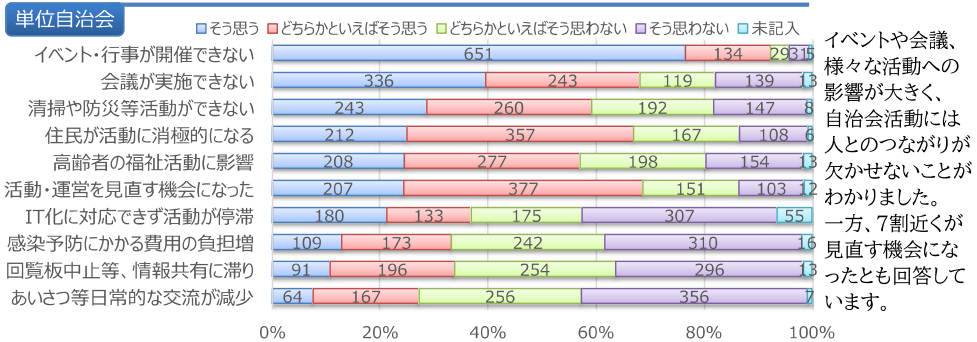
- ・目的をはっきり書く
- ・文字は大きく
- ・文章は短く
- ・要点だけを書く
- ・短く思っても伝える
- ・配付のタイミングも重要(あまり早すぎると忘れられる)
- ・防災訓練などは当日広報車も出す

大きな文字で
完結に書かれた配付物
は、読み手の気持ちを
大切に作った
結果です。



新型コロナウイルス感染症に対する工夫

新型コロナウイルス感染症でどのような影響がありましたか？



アンケートからわかった傾向

- ・単位自治会・連合自治会ともに、一番の影響は行事やイベントができなかったこと。
- ・会議や各活動への影響も大きく、現在は活動を控えているところが多い。
- ・コロナ禍を、今までできなかった活動や運営の見直しの機会としている、していきたいという地域が多い。
- ・新型コロナウイルス感染症が自治会活動をしなないための理由になっているケースも見られる。
- ・コロナ禍のあと、どのように住民の意識を高めていくのが課題だと感じている。

アンケートからわかった新型コロナを契機とした活動のポイント

- ・大切なのは「人が集まること」ではなく、自治会が機能し、住民が安心安全に暮らせること
- ・コロナ禍で開催できなかった活動費用を、その後どう活用したのか、住民へ正しく伝えていくことが重要
- ・実施しなかった活動の経過も加味しながら、見直しの機会としてとらえる

01 会議の感染症対策

(アンケートより)

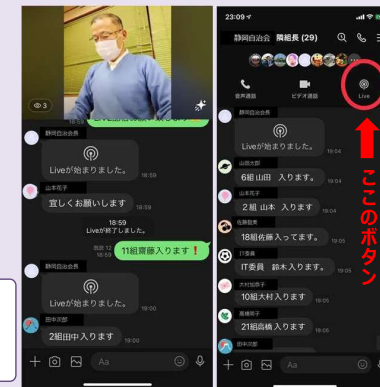
- ・規模を縮小
- ・開催頻度を下げる
- ・会議の時間短縮
- ・広い場所を借りる、屋外を活用
- ・市や連合自治会と、ささいなことでも情報共有を行い、状況を判断して対応しているのかを周知徹底している。
- ・文書を活用
- ・人をわけて時間差で開催
- ・人をわけ場所を分散して開催
- ・LINEやメールを活用
- ・電話で対応
- ・コロナ対策のガイドラインを配布
- ・掲示板を有効活用
- ・感染症予防を徹底して開催

事例①「LINEライブを活用」

- ・コロナ禍で定例会の人数制限を実施(40名を10名ほど)
- ・参加できない方のために、LINEの「Live機能」を活用。

- 1) 組長のLINEグループを作っておく
(全員ではないが、約8割がグループに入っている)
- 2) 定例会前に資料を配付しておく
- 3) 定例会を少人数で開催+LINEライブ配信
- 4) 会場に來ない人はLINEライブで定例会に参加する

・約8割の人が携帯にLINEを入れてあるのでLINEは浸透したツール
・大がかりな道具や、新しいアプリを入れなくても、LINEのグループを使って「Live」ボタンを押すだけで配信され、会話もできるので非常に便利



02 感染症対策と各種活動

- ・社協の支えあい活動で、ボランティアがひきこもりになりそうな方々を少しの時間だけ訪問しています。
- ・福祉事業でマスクの寄付を各町内へお願いし、予想をはるかに上回るマスクの寄付をいただきました。
- ・自治会活動を見直すいい機会になっています。今後の役員のためにも、やらなければいけない事、そうではない事の振り分けを行っていくと考えています。
- ・忙しくてできずいた要望や交通安全のための清掃などを近隣の自治会とともに実施しました。
- ・運動場などオープンな場所を活用して、子供のための映画鑑賞会を開催しました。(アンケートより)

事例①「電話作戦」

- 1) S型デイサービスなど、福祉の居場所や見守り活動ができなくなった。
- 2) 代案としてボランティアによる、高齢者への電話作戦を行い近況の確認などをした。
- 3) 会話の機会が減っている方も多く、よこばれた。
(人数に限りがあること、詐欺電話との差別化が課題)



事例②「見直しの機会として住民アンケートを実施」

- 1) イベントの中止が多くなり、時間ができた。
- 2) この機会に、住民に対してアンケートを実施し、自分たちの自治会活動の問題点を明確にした。
- 3) アンケートでわかった問題を解決するために小委員会を立ち上げ、アンケートで課題としてあがった高齢者福祉や自主防災などの問題に、取り組み始めています。



03 コロナ禍でできなかったことの代案・その後

(アンケートより)

- ・イベントを開催できなかったため、使わなかったお金を防災へまわし、防災倉庫購入の資金にあてています。
- ・来年度の会費を見直し、コロナ禍で使わなかったイベントの分は差し引いて徴収することにしました。
- ・イベントがほぼできなかったため、夏祭りの楽しみだった抽選会を豪華にして年度末に楽しんでもらいます。
- ・課題となっている問題を見直し、連合の体育祭や敬老会の見直しを行い、来年度へ反映します。

アンケートに寄せられた 自由意見・工夫など

担い手不足

三役が期限を過ぎても決まらず、仕方なく仕事と両立。今後同じだと思う。高齢化と負担が要因。みんな面倒なことはやりたくない。平日の会議は勤め人にとって非常に負担が大きいのでなくしてほしい。泣き言をいっても仕方ないので今後勤め人でも出来る様変化をつけて行こうと思っています。

この点については他自治会とミーティングしたい。

高齢者でも働いている人が多いため会長への負担が重なっている。

役員＝退職者ではなく現役会社員にも努める様研修会や集会を夜間や土日行政相談窓口も月1回土曜に設けるなどお願いしたい。

何らかの役職を一度は受けていただいている。組長は輪番だが高齢者は免除。担当や役割の分担を進め、具体的に活動内容を指示するよう努めている。

行政との連絡にFAX使用が多すぎます。郵送文書もメールにして下さい。

役員の高齢化が進んでいるのでオンライン会議で若い世代の参入など今後の会議のあり方を模索、検討中。

IT化等現状はまだ必要性を感じられない。

IT化・デジタル化

一部オンライン会議を実施している。

コロナの影響に関わらず自治会にITインフラは無理無駄。

三役レベルでは三役共通でLINEでトークができるようにし議論連絡を実施するようにした。

高齢者のための集いの広場を集会所に開設したいと活動中です。常時オープンにしたまり場になればと思っています。

高齢者をいかに積極的に取り込むか、シニアクラブの活動や援助。

高齢化対策

高齢者も町内の行事に参加すると住民とのコミュニケーションが図れて会話が弾みます。楽しそうです。

自立が大変と思われる高齢者のみの世帯のゴミ出し等の支援。

自治会として高齢化にどう対応していくか、小委員会を設置し検討。

負担・見直し

運営は地域ごと対応も変わるのでマニュアルは作成しづらいと思うが、あれば参考にしたいので、ぜひほしい。

活動の全て無償化の見直し有償化を取り込まないと役員の成り手がいない。

スリム化、組織の見直しをしている。ほぼ会長の独断になってしまつのがよくない。

募金等の活動はやめてほしい。募金実施団体の手足ではない。

地元運動会などの活動を主に行う体育振興会の役員の業務は40歳以下の若い世代が担当している。年間のスポーツ行事を以前より軽減したことで負担軽減となっている。

役員の仕事量、負担を軽く、誰でも出来るようになればと考えています。広報の配布を、各組長が行っていますので送付先を組長にしてくれると助かります。毎月を隔月への変更も要望したいです。担い手の確保に影響すると思います。

防災

高齢者対策と同時に防災対策を強化すべき。コロナ対策と避難所の対策は未解決。災害時の在宅避難者の長期支援システムを早期に構築する必要あり。

夏祭り、運動会で新規防災部員を勧誘し、組織的な活動参加を促している。

自主防災組織と民生委員との情報交換が必要。

例年では秋に自主防災訓練と懇親会を一日で行って交流を図っている。

災害時の配水車から高齢者宅などの軽トラックの自治会内所有車借上げ（4台）ホイッスルの配布など。

対人関係が希薄化している時代に自治会としての必要性は何か？を考えると自然と災害時の対策が重要になるので、他の活動は極力負担の掛からないようにと考えている。

その他

役員を務めたことで他の自治会役員等と知り合うことができ今後もいい関係が続いていけると思われ役員をやったことのメリットが感じられる。また地域の人達に感謝されることがあり貢献していることが実感できやりがいを感じている。

単位自治会の運営が難しくなっています。NPOなどの立ちあげが必要かと思えます。情報のオープン・共有化ができないので福祉活動に制限があります。

ひと昔前のような会長ありき会長は絶対的存在のような組織ではいけないと思う。自治会は住民の声を聞き、世代ごとのニーズに応えられ隣近所の顔が見えるような関係を作れるような会が理想です。

「あれもこれも自治会長」となっているが、自治会長をやった顔見知りになった人もいてやってよかったな！と思う時もあります。

外国人のゴミ出しが問題。別の日にごみが出て困っている。行政で英語表記のプレート作成をお願いしたい。

求める支援

この問い合わせは〇〇課〇〇係といった一覧表があるとわかりやすい。各自治会に配布してもらえと助かります。

公民館などの集会所がないので支援やアドバイスがあれば教えて下さい。

清水同様に連合の拠点施設が欲しい。

依頼事項が多岐に渡り消化にかなりの時間と労力が必要となっております。

自治会への加入者に対する周知・啓発、自治会役員に対するの人事的助言、ほとんど退職者から構成される役員構成ではなく、現役会社員等が参加できる様な支援をお願いしたい。

自治会退会防止策の決定打をご指導していただけたら大変ありがたい。

自治会活動を見直すいい機会になり今後の人たちのため、(役員)にもやらなければいけない事、そうではない事の振り分けを行っていこうと考えています。

回覧板について。市のガイドラインでは、控える様示されているが、自治連からは回覧物の配布を要望されるという矛盾が生じている。単位自治会によっては従来通り回覧板をしようしている所があり、意志が統一されていない。

コロナ対策

会議は「課題」があるときに実施してきたのでコロナウイルスの影響は特にないと思う。

オンライン会議や短時間の開催により密度の濃い内容に変わってきている。

何でも新型コロナの影響にして活動そのものを拒否する傾向にある。自ら率先して引っ張っていく。

加入促進

自治会活動と公的事業の制限がわからない。災害時、ゴミ、夏祭り、制限していないが自治会には入らない。自治会にはいらなくても事はすむ。

アパートの加入が悪いので何かいい方法はありませんか。

加入するのが当たり前という考えは捨てるべき。メリットがあるならみんな加入する。

集合住宅(学生アパート)が多く大家さんに依頼し組合加入も準会員扱いに対応。

賃貸住宅関係を除く99%が自治会加入している。

集合住宅の管理会社の協力がほしい。

有料駐車場に対して加入必須の条例等の制度ができないものか？

令和3年3月発行
静岡市市民局市民自治推進課
〒420-8602
静岡市葵区追手町5番1号
TEL 054-221-1265